

東北地方整備局
局長 西村 拓 殿

要 望 書

令和7年12月10日

全国生コンクリート工業組合連合会 東北地区本部

全国生コンクリート協同組合連合会 東北地区本部

本 部 長 (秋田工組理事長)	村 岡 兼 幸
-----------------	---------

副本部長 (宮城工組理事長)	高 野 剛
----------------	-------

副本部長 (岩手工組理事長)	金 子 秀 一
----------------	---------

副本部長 (福島工組理事長)	磯 上 秀 一
----------------	---------

副本部長 (青森工組理事長)	西 川 芳 徳
----------------	---------

副本部長 (山形工組理事長)	成 田 潔
----------------	-------

東北地区の令和 6 年度生コン総出荷数量は、396 万 m³、前年比 89.5%となりました。これは 11 年連続の減少であり、過去最低を 3 年連続で更新するものです。本年度上半期も前年同期比 95.0%と底が見えません。

他方、コスト面では、セメント・骨材・輸送費・エネルギー価格の上昇や、従業員の待遇改善・人材獲得のための財源確保と、コストアップが続いております。

生コン業界としては、これらコストアップ分を、逐次、生コン価格に転嫁するため、取引先に理解を求めていく必要があります。

このように、東北地区の生コン業界は、出荷量の減少、コストの上昇、生コン価格への円滑な転嫁という難題を抱え、極めて厳しい経営環境におかれております。

我々生コン業界としては、東日本大震災において、コンクリートが人の命を守る事例が数多く見られたことから、「コンクリートは人の命を守る」というスローガンを掲げ、災害に強いコンクリート構造物の推進が図られるべきであると考えております。

かかる状況を踏まえ次の事項につきまして、なお一層のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

1 公共事業の維持・拡充

今年も秋田県を中心に豪雨災害が発生したのをはじめ、日本各地で自然災害が発生しています。近年、激甚化・頻発化している自然災害への備えは極めて重要で、防災・減災、国土強靱化の取組を推進する必要があります。

また、三陸沿岸道路のような高速道路網や、産業開発に繋がる港湾等のインフラ整備は、社会経済に大きな効果を生み出すため、着実に進める必要があります。

さらに公共事業は、それ自体が地域の経済や雇用を支えている側面もあります。

かかる観点から、引き続き公共事業を維持・拡充されますよう特段のご尽力をお願い申し上げます。

2 コンクリート舗装の普及・拡大

コンクリート舗装は、丈夫で耐久性が高いため維持補修が少なく済み、ライフサイクルコストが低減できます。また、国産材料から生産されるため安定供給が可能であるほか、大型車の燃費向上等によりカーボンニュートラルへの貢献も期待できます。

東北地方整備局におかれましては、コンクリート舗装の優位性をご理解のうえ積極的に採用いただいているところ、一層の採用拡大をお願いするとともに、地方道への普及・拡大につきましても特段のご配慮をお願い申し上げます。

3 公共事業における生コン使用の拡大

近年、建設投資額の増減と関係なく生コンクリート出荷量が減少傾向にあります。背景にはプレキャストコンクリートの多用、維持補修工事の割合拡大等があると言われています。

東北地方整備局におかれましては、コンクリート構造物の施工にあたりましては、地産地消や型枠・鉄筋工の技術継承等の観点も踏まえ、可能な限り生コンクリートを採用して下さるようお願い申し上げます。

また、災害復旧事業につきましても、激甚化に対応するため生コンクリートを用いた強靱な構造物を積極的に採用して下さるようお願い申し上げます。

4 コスト高騰を踏まえた生コン価格への円滑な転嫁の推進

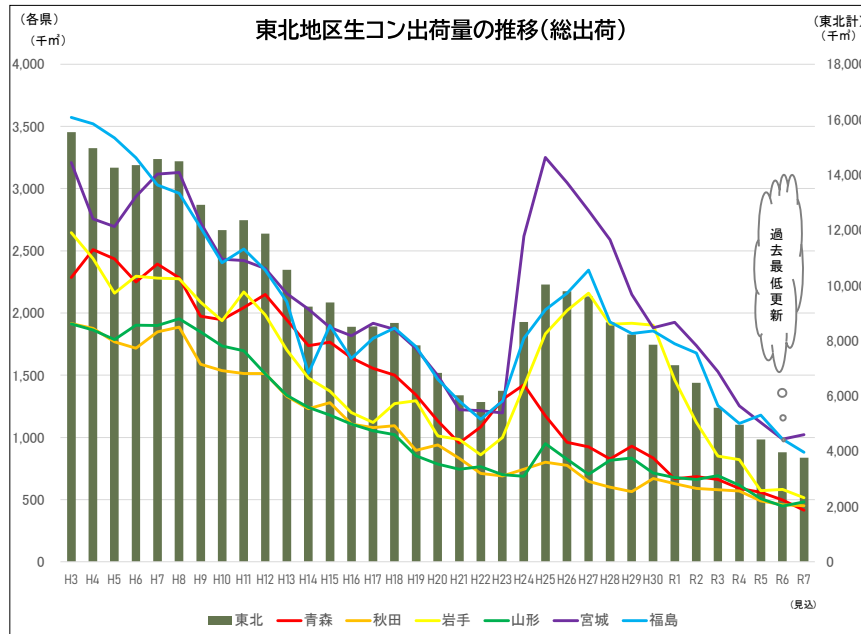
原材料費やエネルギー価格の高騰、労務費の増加等、コストアップが続いて経営が圧迫されており、生コン価格への円滑な転嫁が不可欠です。

つきましては、請負代金の積算時には最新の生コン表示価格を採用することや、いわゆるスライド条項を元受け会社が積極的に活用する環境づくりに引続きご留意いただくとともに、自治体や関係団体への周知、指導を継続下さるようお願い申し上げます。

さらに当業界ではコストアップを生コン価格に適時、適切に転嫁するため、出荷ベースでの価格設定等、新しい契約形態を推進しておりますのでご理解、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

東北地区の生コンクリート出荷状況

- ✓ 令和6年度の東北地区 生コン出荷量は、過去最低を更新。
- ✓ 今年度上半期の出荷量も、前年同期比95.0%と減少が続いている。



一工場当たりの出荷量

- ✓ 東北地区の一工場当たり年間出荷量は15,236 m³と、全国値を大きく下回っている。1万m³を割込んでいる協組、工場もあり、経営的に厳しい。
- ✓ 集約化を図る地区もあるが、一部地区では工場空白地帯が発生している。

	全国	東北	青森	秋田	岩手	山形	宮城	福島
2014年度	28,333	32,562	18,367	18,507	40,164	16,727	49,198	44,489
↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
2024年度	23,196	15,236	13,098	14,327	12,968	10,751	18,020	20,270

コンクリート舗装の状況

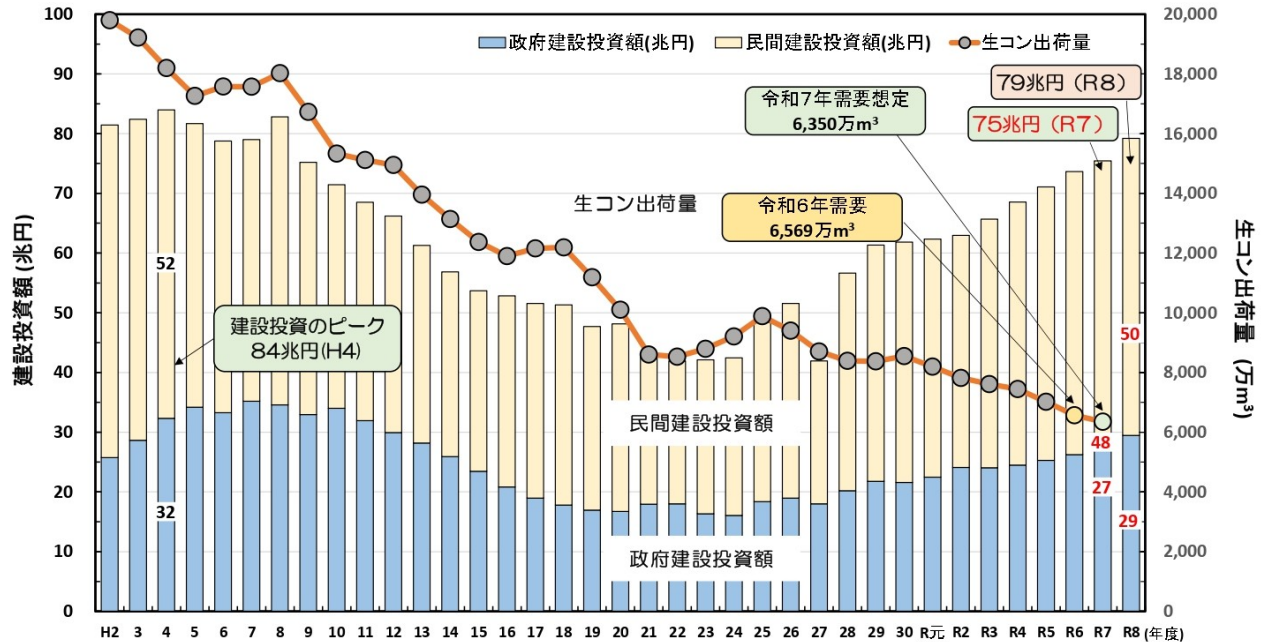
- ✓ 国道は、復興道路等を中心にコンクリート舗装の割合が拡大したが、県道・市町村道は縮小。全体では5%台と採用があまり進んでいない。

コンクリート舗装の割合(東北) 単位: %

	2013 年	→	2023 年
高速自動車国道	2.74	→	7.90
一般国道	5.86	→	7.00
県道	1.64	→	1.45
市町村道	8.06	→	7.33
計	5.56	→	5.64

建設投資額と生コン出荷量の関係

- ✓ 平成 28 年度頃から建設投資額と生コン出荷量の動きが乖離し、生コン出荷量は一貫して減少している。



出所：建設投資額は（一財）建設経済研究所、（一財）経済調査会 経済調査研究所

コスト高騰の状況

- ✓ セメント、骨材をはじめとするコストの上昇が続いており、価格転嫁が課題。

